

第105回
全国高校野球
大分大会

大会評

好投手多数で見応え

夏の甲子園出場を懸けた各校の熱戦は、明豊の優勝で幕を閉じた。好投手を擁するチームが多く、引き締まった試合が多かった。

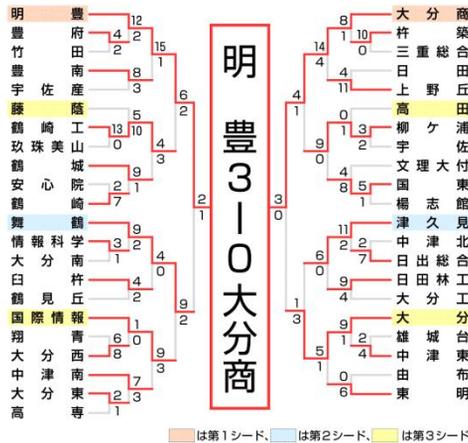
安打を打ち、準決勝決戦は少ない好機を生かして得点を挙げた。投手陣も中山、森山のダブルイースを軸に安定していた。

準優勝の大分商はセンバツを戦って投手陣は4校の戦いよりも素晴らしい投手陣を擁した。鶴崎は3回

攻守に手強い野球で勝ち上がり、頂点まであと一歩に迫った。ベスト4で敗れた舞鶴と大分も健闘した。舞鶴は夏の九州地区大会準優勝を上回り、津久見も持ち味を揮った。

戦で九回サヨナラ勝ちを収めるなど粘り強かった。国際情報は投手を中心とした守りの野球で、柳部以来初の8強入り。柳部は1シードから勝ち上がった。終盤まで目の離せない戦いが多かった。

コールド、昨年比2減



部員不足には課題も

部員が20人に満たない学校が多く、目を引いた。3年生が引退すると単独で出場できないチームが4校ある（休部中の三隈を除く）。少子化の影響に加え、新型コロナウイルス禍で競技を離れた生徒も少なくないという。部員不足は全国的な課題で、競技人口の増加に向けて関係者の一層の努力が求められそう。明豊は大分大会で敗れたチームの思いも背負って甲子園で存分に力を発揮してほしい。（八坂啓佑）

大分合同新聞 2023年7月28日(金) 朝刊 19面

〔問①〕 ベスト8に残った高校を挙げよ。ノーシードから勝ち上がった高校は？

（ベスト8）明豊、鶴崎工、舞鶴、国際情報、大分商、柳ヶ浦、津久見、大分

（ノーシード）鶴崎工、柳ヶ浦

〔問②〕 野球人口の減少の要因を考えたり、調べたりしよう。

自由記述

〔問③〕 増加に向けて、どのような方策が有効か考えよう。

自由記述